

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

職員数 3名 回答者数 3名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3			不穏時などに個別対応できるスペース(部屋)もある。
	2	職員の配置数は適切であるか	3			適切な配置をしており、児童の行動の細部まで目が届くようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	3			建物内すべてがバリアフリー構造となっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	1	1	1	細かい事でも必要なことと認識してPDCAサイクルを活用して業務の改善に努めて行きます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2	1		今回が初めての評価であり、今回の結果を踏まえて必要なことは業務改善を行っていく。保護者様が積極的に意見を述べる事が出来るような投書箱の設置も考えていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	2	1		今回ホームページでの公開となる。次回発行の広報に公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			3	第三者外部評価はまだ行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3			事業所内でのスキルアップ研修を月に1回開催している。外部研修にも積極的に参加しており、情報を全職員で共有している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	3			担当職員が保護者様の要望を頂き、アセスメントを行い、全職員が参加して課題、必要な支援を話し合い計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		3		Vineland-II等の使用はない。他の様式でアセスメントを行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3			季節に合った活動内容、個々に必要な活動を話し合い決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3			活動が楽しいと思えるように、興味のあることを取り入れ、少しずつ内容を変化させたり、新しいことを取り入れたりしながら支援している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3			休日、長期休暇には外出などを取り入れ地域との関わりを大切にしている。外出時(買い物、公共施設の利用など)のルールを守ることを狙いとするなどして支援を行っている。

14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3			集団活動では協調性、社会性等を養い、個別活動では自己意欲、自己肯定感を高めることができるような活動を本人の要望、状況を見極めを取り入れ作成している。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	3			行っている。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	2		常時は行われていない。 気付いたことはその都度確認、共有するようにしている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	3			毎日の記録を活動、行動、言動、健康面等項目を細かく設定して記録を行っている。支援方法に改善点、問題点があった場合には会議を開催して解決策を講じている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3			定期的(6ヶ月)毎している。今後、見直しが必要なときにはその都度計画変更を行います。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	3			ガイドラインを全職員が熟知し支援を行ってきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3			担当職員、児童発達支援管理者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	3			学校行事、下校時間などは保護者様より月末に翌月分連絡を頂戴している。トラブル発生時には電話にて保護者様に連絡を行っているが、災害時等は電話不通も考えられるためメールアドレスの把握も必要。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			3	現在、医療的ケアが必要な児童は利用していない。医療的ケアが必要な児童の受け入れは困難(スタッフ、スペース等)
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	1	1	これまで保育園等卒園児の利用はない。今後、必要時には対応して行く。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3			保護者様の同意を得て、情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			3	必要時には専門機関との連携を取り、研修などには積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	1	児童クラブ、児童館との交流はないが、公共施設を利用した活動では関わりを持つことが出来ている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3			管理者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	3			保護者様がお迎えに来た時には必ずその日の様子を申し送り、現況、今後の課題などを両方で理解できるよう専門用語を使わずに説明している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	1		職員のペアレントトレーニングスキルが十分ないと思われる。今後研修に参加するなどして職員のスキルアップを図る。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3			文章にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い、各1部ずつ保管している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3			その都度対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			3	利用人数が少なく、事業所単体では組織化出来ていないが法人全体の保護者組織「手をつなぐ育成会」はある

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3			これまで苦情はありませんが、今後苦情の申し立てがあればその都度迅速に対応していく。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	3			定期的に広報の発行を行い、活動の様子を伝えている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	3			個人情報を関係機関への開示、法人広報、メディアへの画像記載などは契約時に個人情報開示書にて開示の可・不可確認をして頂いている。 各自のケースファイルはスチール棚にて厳重に管理し外部者の目には入らない様に保管している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	3			絵カード等の視覚にて支援を行っている。 保護者様との会話では専門用語を使わない様に心がけている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			3	法人全体の行事は地域住民に案内をしており、毎年多数の来場者がある。 長期休暇を利用して事業所単体でのイベントを設けてみたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		2	1	各マニュアルは策定してあるが、保護者様への詳細な周知は出来ておらず、特に緊急時対応マニュアル(連絡方法等)は整備して文章の配布を行います。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3			月に1回行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	3			虐待防止マニュアルを整備している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3			これまで身体拘束はない。 身体拘束を行う場合のマニュアルを法人全体で整備している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか					現在アレルギーのある児童の利用はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3				作成している。いつでも閲覧できる環境を整備している。